

～あなたはこのまちに、こんな優しさがあることをご存知ですか？～

「できた！」の瞬間を、一緒に喜びたい。 こども園の先生が語る保育の心

～こども園～

ちよっといいまち
の
ちよっといびと

令和8年4月、古市幼稚園・古市南幼稚園・駒ヶ谷幼稚園・下開保育園の統合により、新たにスタートした古市こども園。こどもたち一人一人の発達や気持ちに寄り添いながら、たくさんの「やってみたい」を育んでいます。今回は、こどもたちの成長を支える山本先生と松村先生に、保育への思いや心に残るエピソード、新しいこども園への期待を伺いました。

「あの先生みたいになりたい」

から始まった

—保育の道を目指したきっかけは？

山本：幼い頃からピアノを習い、音楽が大好きでした。職業体験で幼稚園へ行った時、「音楽が好きなら保育に向いているんじゃない？」と先生に声をかけてもらったんです。生き生きと働く先生の姿がとてもかっこよくて、「こんな先生になりたい」と憧れ、保育の道へ進みました。

松村：幼稚園の担任の先生が大好きでした。その温かい思い出がずっと心に残っていて、職業体験でも幼稚園や保育園を選びました。こどもたちと接する中で、「やっぱりこどもってかわいいな。私もあの先生みたいになりたい」と思うようになりました。

小さな「できた！」が、大きな喜び

—仕事のやりがいを感じるのは？

山本：こどもたちの成長を感じた時です。運動会や発表会に向けて、劇や鉄棒、コマ

回しなどに一生懸命取り組みます。本番で努力の成果を家族に見せた後の、「やりきった！」という表情を見ると、一緒に頑張ってきてよかったと思います。

松村：私は1歳児を担当していますが、数か月で驚くほど成長します。入園当初は泣いていた子が「先生、おはよう」と言えるようになったり、自分でズボンを履こうとしたり。大人には小さな一歩でも、こどもにとっては大きな一歩。その「できた！」をそばで見られることが、とてもうれしいです。

「やってみたい」の気持ちを大切に —こどもたちと接する上で大切にしていることは？

山本：「ここなら安心して自分を出していいたい」と思える環境をつくることです。泣いたり怒ったりする気持ちもしっかり受け止めたいと思っています。

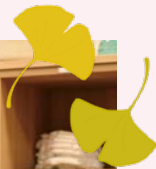
松村：私はこどもの目線に立ち、まず思いを受け止めることを大切にしています。「これがしたかったんだね」と受け止めてから伝えるようにしています。

こども同士だからこそ、生まれる力

—心に残っているこどものエピソードは？

山本：以前、5歳児を担当したときに自分の苦手なことにはなかなか挑戦できない男の子がいました。最初は私が励ましていましたが、少し離れて見守ることに。すると、お友達が「一緒にやろう」と誘ってくれるようになり、お友達となら挑戦できることが増えていきました。こども同士の関わりには、大人にはない大きな力があると教えてもらいました。

松村：印象に残っている子がいます。入園したばかりの最初はずっと泣いて、保育室の窓際に座りながら、みんなを眺めていました。無理に誘わず見守りました。そして、その子が「助けてほしい」と目でサインを送ってくれた時に、そっと声をかけました。少しずつ窓際から担任のそばへ、そしてお友達の輪へ。今では元気いっぱいに遊んでいます。



山本 朋花 先生



松村 奈津弥 先生



いろいろな経験が集まり、新しい力に —新しいことも園の魅力は？

山本：私はこども園の立ち上げから関わっています。最初は期待と不安がありましたが、いろいろな園から来たこどもたちが自然につながっていく姿を見て、「一緒に遊べてよかった」と心から思いました。0歳からの成長や遊びがどうつながっていくのかを見られることもこども園の魅力です。

松村：幼稚園と保育園、それぞれの経験を持つ先生たちが知恵を持ち寄っていることが魅力だと感じています。それぞれの良さを学び合っています。リズム遊びや泥遊び、自然の中での活動、異年齢での交流も日常にあり、お兄さん、お姉さんへの憧れや、小さい子への思いやりも自然に育っています。

園と家庭、地域でこどもたちを見守る —保護者や地域とのつながりについては？

山本：忙しい中で子育てをされている保護者の方も多いので、毎日の挨拶やコミュニケーションを大切にしています。「困った時は先生に相談しよう」と思ってもらえる存在

でありたいです。

松村：怪我やトラブルの報告だけではなく、「こんなことができました」と、こどもの成長も伝えるようにしています。園と家庭が一緒になって、こどもの成長を喜べる関係をつくっていききたいですね。

このまちで

こどもたちと一緒に歩いていく

—最後に、これからのこども園への思いをお願いします。

山本：乳幼児期だからこそできる経験や、感じられる気持ちを大切にしたいです。地域の自然の中を歩いたり、家庭だけではできない経験が、こどもたちの可能性を広げていくと思います。地域の皆さんにも温かく見守っていただきながら、こどもたちと一緒に毎日を本気で楽しみたいです。

松村：この園ならではの保育をこどもたちと一緒に学び、成長していきたいです。いろいろな経験を持つ先生と、いろいろな場所から来たこどもたちが集まるからこそ、新しい発見があります。こどもたちも、保護者

の皆さんも、私たちも、「ここで過ごせてよかった」と思える園を、みんなできつづけていきたいです。

こどもたちの「やってみたい」が

まちの未来

「できた!」と笑う子。「やってみたい」と一歩を踏み出す子。友達に手を差し伸べる子。その一つ一つの姿を見守り、喜び、支えている先生たち。いくつもの園が一つになって始まった新しいこども園。これまでの経験と新しい出会いが重なり、こどもたちの未来を育む物語が始まっています。こどもたちの笑顔を真ん中に、先生も、家庭も、地域も。みんなと一緒に、このまちの未来を育てていきます。

